

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2572300107		
法人名	特定非営利活動法人 ふれあいセンター「そよ風」		
事業所名	グループホーム 大空		
所在地	滋賀県湖南市吉永272		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	令和2年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・小規模で家庭的な雰囲気です利用者同士・職員との関係も良好な中で生活している。 ・自治会に加入しており、地域の行事に参加したり、近くの保育所との定期的な交流を行っている。(今年は新型コロナウイルス感染症のため中止) ・近隣の人たちとも毎日の散歩等で馴染みの関係ができ、野菜等を持って来てくださる等の関係が保たれている。 ・市の防災訓練時、区の一員として地域の人たちと訓練に参加している。 ・事業所の防災訓練時、近隣の住民の協力を得て行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して17年経ち、理念に“利用者が住み慣れた地域で利用者らしく温もりのある生活を送れる”ことを掲げ、系列の併設施設と相互連携の下に、利用者の状態や過ごし方の意向に応じた支援を柔軟に提供している。花見、夏祭り等の季節行事や家族・地域住民を迎え入れるの敬老会行事、幼稚園児の見送りや日々の近隣散歩などが利用者の日常的な楽しみになっていたが、今般のコロナ禍により活動自粛を余儀なくされている。食事の調理、後片付けを利用者が能力に応じて担い、利用者の意欲的に取り組む姿が窺える。家族交流会での声を運営に反映するとともに、家族の来所時には職員が相談相手となり、利用者が思い思いにくつろぐ姿に家族から安心と信頼の声が届いている。職員は事業所内外の研修を受講する機会が多く、それを日々の介護に反映している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全員で確認し、居間の見える場所に理念を掲示している。日々のサービス提供を振り返り、理念がケアに反映されるよう職員の意見の統一を図り実践につなげている。	理念を所内掲示し、日々のケアで直面する課題(事象)を理念に照らしてミーティング等で話し合う習慣を心掛けている。家族には家族会での説明で、また地域には運営推進会議で理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナウイルス流行のため地域の交流や行事に参加できない。散歩時、地域の方に挨拶を行うなど交流している。	通常は事業所催事に地域住民の参加を呼びかけ、利用者と地域住民が親しく接し関わりを深められるよう支援しているが、現状はコロナ禍により活動自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の委員の交代があり、グループホームの意味を理解してもらうため会議の場を通して認知症について話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では取り上げられた検討事項や勘案事項について経過を報告したり、毎月の活動・現在取り組んでいる内容についても報告し、家族や地域の方からも意見ももらって活動内容に活かしている。	行政、地域、家族代表に事業所関係者が出席し、利用者の状況報告や事業所運営に関するテーマを検討している。職員全員には会議出席者が議事内容を伝え、周知徹底を図っている。外部評価の報告も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回市からの介護相談員の訪問を受け、利用者や直接話をしてもらい、アドバイスを受けている。対応について困った時は市職員担当者に相談し助言を得ている。	市の高齢福祉課と包括支援センターとは連携を密にし、当面課題や制度上の相談に助言を受けている。来所の介護相談員には利用者の失禁時対応や安価なシーツの購入方法等の指導や情報を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修等により学ぶ機会を設けている。また、利用者が危険行為や外に出たがる場合、むやみに止めるのではなく、見守り強化や一緒に行動することで抑圧しないようにしている。3か月に1回「身体拘束検討会議」を実施し、事例検討している。年2回内部研修を行っている。	身体拘束が利用者に及ぼす影響等の研修を職員全員が受講しミーティングで話し合い、日々のケアに活かしている。玄関は夜間を除き施錠せず、利用者の外出時には職員が付き添い同行している。徘徊する利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで職員間で話し、学ぶ機会を設けている。高齢者虐待防止に関する理解や浸透、遵守に向けた取組を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで「成年後見制度」について学習会を行い、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特別に時間をとり、利用者や家族に丁寧に説明している。特に利用料金・重度化や看取りについての対応方針・医療制度の実際について詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や訪問時、家族会などで常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意し、出された要望はミーティングで話し合い反映させている。	家族会や家族の事業所行事参加時、ケアプラン更新時等に家族の意見や要望を聴取している。利用者と家族と一緒に団欒して食事を楽しむ要望など家族から汲み取った意見はミーティングで取り上げ、事業所運営改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月2回行い、個別面談も年2回行って、意見を聞くようにしている。常にコミュニケーションを持ち、問いかけたり、聞き出したりしている。	日々のケアの中で職員同士が意見交換をしながら当面課題についてミーティングで取り上げ、検討している。最近では入浴時間帯や食事介助について取り上げ改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ており、利用者と過ごしたり、職員一人ひとりの業務を把握している。年2回人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に外部研修を全員が受講できるようにし、伝達研修をして、研修報告書は閲覧できるようになっている。また、職員の資格取得のための支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湖南省介護保険事業者協議会に加入し、研修に参加したり、他事業所との交流を行い、サービスの質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人に会い、心身の状態や今の生活状態を把握し、本人の求めることや不安を理解しようと工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や想いを聞くことで家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。日々の変化などがあれば報告するなどコミュニケーションをとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思いを確認し、早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、本人にとって必要なサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思い(不安や喜びや悲しみ等)を知り、大切にすることを暮らしの中に取り入れ、安心して暮らせるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や様子を大空通信で知らせたり、電話や来所時家族に伝えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの店や病院に行くことで気持ちが落ち着くことができるように支援している。	家族からの聞き取りやフェイスシートで入居前の生活歴や馴染みの関係を把握し、馴染みの場所への訪問など関係継続のために支援している。現状はコロナ禍で実施できず近隣散歩が主である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性についての情報を職員が共有できるようにしている。また、職員が間に入り利用者同士が関わりを持てるように支援している。トラブルが発生しないように個別の対応ができる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しく利用される施設等へ本人のこれまでの暮らしの継続性が損ねられないようにこれまでの生活環境や支援の内容などについて情報提供し、きめ細かい連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとってどこでどのように暮らすことが最良なのかを家族を交えて検討している。日々の関わりの中で声をかけ、常に把握に努めている。	家族からの聞き取りや個人ファイルと連絡帳で利用者の思いや希望を把握している。散歩や入浴時などの日々の関わりから変化する利用者の思いや希望を職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族から聞いたその人独自の生活歴・ライフスタイル・個性・価値観を把握し、ケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、日常の生活から利用者の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め、職員全員で意見交換し、本人・家族の意見を聞き、モニタリングやカンファレンスを行って、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。	介護計画は利用者、家族を中心に関係者で話し合い、計画作成担当者が作成し、家族の承認を得ている。状況変化があれば都度、変化がなくても3か月毎に見直しを行い、家族の承認・確認印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化を個々のケア記録に記載し、職員間で情報を共有している。いつでも確認できるように個別ファイルになっており、勤務開始前の確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に沿って、往診・出張理美容等必要な支援を柔軟に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の方・市の職員等が参加され、グループホームについての意見交換する機会がある。周辺情報や支援の情報交換をすることで協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。状況に応じて、かかりつけ医が変更になることもある。受診・往診の際には日々の様子伝達しておきたい事項を情報提供している。	利用者のうち3名が従来からのかかりつけ医を受診し、6名が契約医による往診を受けている。かかりつけ医受診時にはバイタルデータを家族に渡し、受診結果は職員が聞き取り共有して日々の健康管理に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常時連携がとれている。体調の変化を見逃さず、すぐに報告し、対応の指示を受け、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師への情報提供を行い、医師からの指示やアドバイスをいただき、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人ご家族の意志確認を行い、事業所でのターミナルケアを説明し理解していただいている。本人・家族の意向を踏まえて、医師・職員が連携し安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。	重度化・終末期に対する事業所方針を重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。事業所新築時に看取りの部屋「静養室」を作り、新型コロナウイルス感染にも対応できるようにしている。事業所対応が困難な利用者には対応可能な施設、病院への移行を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が年に1回の勉強会に参加し習得・体得し、緊急対応マニュアルの周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者・地域の方と一緒に避難訓練を行っている。事業所内には消火器・火災通報装置・AEDが設置しており、使い方の訓練も行っている。	年2回実施している避難訓練の内、夜間想定訓練は本年度は行っていない。避難訓練に消防署の立ち合いは行われていない。災害用食材は3日分備蓄し、水は貯水タンクへ保管している。	地域の協力を得た夜間想定訓練の実施を期待したい。 消防署の派遣を得た避難訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も一人ひとりの気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉掛けをするように努めている。	職員は個人情報やプライバシー確保の理解を深めるための研修を受講している。態度や言葉遣いについて職員同士で注意し合うこともある。利用者の人権や個性を尊重した利用者毎のケアを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた言葉かけや自発的な意思表示が難しい方に対しても表情や反応を注意深くキャッチしながら、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛けている。その日のコンディション・様子を見ながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイル(衣服や化粧)を把握し、その人らしさが保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・食材切り等利用者のできる力を活用し、食事が楽しくなるよう利用者と職員と一緒に準備したり、後片付けをしている。	利用者の好き嫌いに対応し、基本的献立に加え本人希望を取り入れる場合がある。重度化利用者にはミキサー処理するなど特別食を提供している。外食は休止中で出前食を取ったり誕生日会などの行事食の楽しみも組み入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。献立も栄養のバランスに配慮している。食事量も個々に合わせて確認するようにし、食べやすいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持や疾病予防の面から口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。自分でできる利用者は見守りをして、できない人には毎食後ケアを行い、嚥下障害や肺炎予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見ながら、排泄パターンを把握し時間を見計らって声掛けをしている。夜間必要に応じてポータブルトイレを使用している。	利用者の排泄パターンやもよおし時兆候を職員で共有し、利用者の表情・行動から判断し適時のトイレ誘導をしている。自立排泄可能者は6名でリハビリパンツを使用し、布パンツ使用者は3名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便通のない方には水分の補給や乳製品・食物繊維を取り入れ、自然排便がスムーズになるよう支援している。また、運動することで便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を喜ばれる利用者にはゆっくり入浴できるよう配慮している。但し、体調面も配慮し、時間配分も気を付けている。入浴を拒否する人には声掛けをしながら入浴支援をしている。	利用者の入浴習慣や希望を汲み入れながら週3回入浴している。柚子湯を取り入れたりして入浴を楽しめる工夫をしている。自立入浴不可の利用者にはリフト浴の対応もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。眠れない利用者には付き添って見守りしたり、本人の話聞く等おしゃべりをする配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや処方箋を個人ファイルに綴じ、職員が確認できるようにしている。薬の変更や副作用についてはミーティング時に話し合いをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り・裁縫・花の水やり・洗濯干しなど職員と一緒にしている。今まで積み重ねてこられた経験や知恵を発揮する場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出る機会は新型コロナ感染防止のため随分少なくなってしまったが、散歩は戸外へ出られるチャンスなので、積極的に行っている。	通常は季節に応じて事業所周辺のドライブに出かけたり、近隣の温泉を楽しむ機会もあったが、現状はコロナ禍により活動自粛している。近隣の散歩が気分転換の機会になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナ感染防止のため利用者と一緒に買い物に行く機会もなくなっているため、自分のお小遣いで買い物する機会が持てていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族に電話しやすい雰囲気づくりや職員から声掛けを行うとともに、利用者の希望に応じて電話や手紙等を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるカレンダーや壁面飾りを利用者と一緒に作り、ダイルームに貼っている。季節の花を洗面台などに飾って気持ちよく過ごせるようにしている。	居間、居室は採光良く、落ち着いたある居心地の良い共有空間となっている。通路には随所に季節感を味わう花を飾り、利用者がくつろげるよう配慮している。トイレ、浴室は利用しやすい場所にあり清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたり、気の合う人同士が過ごせるよう施設内に2か所ベンチを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品や家族の写真等を飾ったり、混乱する物は片付けたり、一人ひとりに合った居室づくりを行って温かい雰囲気を出すよう努めている。	居室は明るく清潔で空調完備している。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込み、自宅に近い雰囲気の中で落ち着いて過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるかを常に追求し、職員間で話し合い情報を共有し、状況に合わせた環境整備に努めている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	自己36	日々のケアの中で、利用者のその人らしい尊厳を大切にし、人権尊重のケアを常に意識したい。	利用者に与える身体的・精神的苦痛を理解し、拘束(特に言葉による拘束)のないケアを実践する。	利用者が引き起こす症状の原因をひもとき、一人ひとりの利用者が抱えている不安や混乱等の要因を理解し、根拠のあるケアをしていく。	12ヶ月
2	自己38	一人ひとりの利用者のペースに合わせた支援が出来るようになりたい。	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、利用者の希望にそって支援していく。	利用者が希望する暮らし方を聞き出し、利用者本人と職員と一緒に考え、過ごしやすい環境を整えていく。	12ヶ月
3	自己51	新型コロナウイルスの影響で、家族との交流が出来なくなっている。	年賀状や暑中お見舞い等、手紙や絵手紙を作成する機会を作り、家族との交流に繋げていく。	レクで行っている塗り絵や貼り絵を活用し、絵手紙にすることで家族との交流を支援していく。	12ヶ月
4	自己35 外部13	避難訓練・災害対策を年2回行っているが、夜間想定訓練や消防署員による指導・助言を受けられないでいる。	昼夜問わず、利用者が避難できる方法を全職員が身につけ、地域との協力体制を築き、消防署員の立ち合いのもと、訓練を行うことができる。	夜間想定(職員1人体制時)で訓練を行う。また、消防署員の立ち合いのもとで訓練を実施し、指導・助言を頂けるように依頼する。運営推進会議の場において、消防署の派遣を行ってもらえるように要望する。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。